

**東アジアの平和を求め  
岩国基地強化と韓米合同軍事演習に反対する  
日韓共同アピール（案）**

私たち韓国と日本の市民は今日、東アジアの平和を求め、岩国基地強化と韓米合同軍事演習に反対して、ここ岩国に集まりました。

きたる3月上旬から4月にかけて、韓米合同軍事演習「キー・リゾルブ」・「フォール・イーグル」が行われようとしています。昨年と同演習は、朝鮮民主主義人民共和国に対する先制攻撃と体制崩壊をも想定した「作戦計画 5015」にもとづいて実施され、史上最大規模となりました。このような演習は、朝鮮半島の軍事緊張と戦争危機を極度に高め、東アジアの平和を阻害するものに他なりません。私たちはこのような危険な戦争演習に断固として反対します。

この合同軍事演習には、岩国基地所属の米軍戦闘機も毎年参加しています。朝鮮半島に最も近い米海兵隊基地として、岩国基地は朝鮮半島への出撃拠点であり、東アジアの軍事緊張を日々つくりだしている策源のひとつとなっています。

日米両政府は今、この岩国基地の一大強化をおし進めようとしています。今年1月からF-35Bステルス戦闘機 16機の配備を開始し、愛宕山での広大な米軍住宅建設を進め、今年後半からはいよいよ神奈川県厚木基地から空母艦載機 61機の移駐を実行しようとしています。それが完成すれば、岩国は約1万人の米軍関係者がひしめく街となり、岩国基地は約130機の戦闘機を抱える東アジア最大規模の基地となります。それはこれまでも騒音や米軍による事件・事故、凶悪犯罪や性暴力に苦しめられてきた岩国の人々にさらなる犠牲を押しつけようとするものに他なりません。

岩国の人々は、2006年3月の住民投票で空母艦載機の移駐に反対する意思をはっきりと示しました。そして、今も基地強化に反対してたたかいを続けています。私たちは住民の意思を無視して強行されようとしている岩国基地強化に反対し、岩国の人々の粘り強い活動に連帯します。

米国でのトランプ政権の発足は、東アジアの戦争危機を高めています。トランプ政権は、中国や朝鮮民主主義人民共和国への軍事的包囲と戦争挑発を強め、アジア太平洋地域での米軍の前方展開体制をいっそう強化しようとしています。それと一体に、日本の安倍政権は集団的自衛権の行使を可能とする「戦争法制」の下、日米の軍事的一体化を推進し、自衛隊の海外出動態勢をますます強化しています。私たちはおし進められる韓米・日米の軍事同盟の強化を許さず、米韓日の三角軍事同盟をつくりあげようとする動きに反対します。私たちは韓国へのTHAADシステム配備に反対し、韓国と日本の軍事協力を進めるための韓日軍事情報包括保護協定の撤回を求めます。

私たちは平和を求めてここに集まりました。私たちは軍事演習や基地強化ではなく、朝鮮半島の非核化と朝鮮戦争を公式に終結させる平和協定を締結し、朝鮮半島の平和統一に向けて恒久的な平和体制を築き、それを通して東アジア全体の平和を実現していくことを求めます。そして、平和を求めるすべての人々と手を携え、アジアからすべての米軍基地を撤去させるためにこれからもたたかい続けていくことを誓います。

2017年2月18日  
基地と平和を考えるフォーラム in 岩国  
参加者一同